

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
電話番号	0827-83-0036	事業所番号	3577200920
法人名	有限会社 龍泉		

訪問調査日	平成 19 年 12 月 5 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 13 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	20 人	常勤 8 人 非常勤 12 人 (常勤換算 12 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造(在来工法) 造り	
	1 階建ての	~ 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 42,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
その他の費用	月額	13,000 円		
	内訳	光熱費 10,000円 共益費 3,000円		

(4) 利用者の概要 (11月19日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	7	要介護 4	2
	要介護 2	4	要介護 5	
	要介護 3	5	要支援 2	
年齢	平均 87.6 歳	最低 76 歳	最高 99 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 松井医院 歯科 おかもと歯科クリニック
-------------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

周辺には、役場、警察、消防署、商店街などがあり、駅やバス停にも近く、利用者にとって生活環境と変わらない場所にホームがあり、日常の散歩や買い物を楽しんでおられます。家族が自由に意見が出せる機会として、毎年1回「家族の集い」を開催しておられます。大家族主義を目標にし、入居者や職員が一つの大きな家族として一人ひとりと向き合い、共に暮らしていく姿勢でケアが行われています。

(特徴的な取組等)

2ヶ月に1回定期的に歯科医の往診があり、かみ合わせやブラッシングの指導が受けられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の外部評価の結果は、運営者や職員、運営推進会議で協議され、前回の指摘事項の一つである苦情処理など改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

運営者、管理者、職員は共に自己評価について正しく理解し、今回の自己評価についても全職員に評価表を配布し、各自で気づきを記入してもらい、最後は管理者がまとめられました。

(運営推進会議の取り組み)

自治会長、地区会長、民生委員、第三者委員、地域包括支援センター、消防署員、利用者、家族などで2ヶ月に一回開催し、意見交換をしていますが、お願いと実績報告が中心となっています。

(家族との連携状況)

家族会があり、花火大会や運動会、クリスマス会に参加しています。家族へ報告として毎月「秀東館便り」を送付し、また、電話や面会時には家族の意向、要望、苦情などを聞くよう努めておられます。

(地域との連携状況)

地域の理解を深めるために、毎月一回「秀東館虹 情報発信」を発行し、地域への回覧を行っています。花火大会、運動会、クリスマス会には地域の参加もあり、利用者や家族との触れ合いが行われます。運営推進会議で実施した「AED」の講習会では地域の参加もあり、必要が生じた時は地域の方への貸し出しも出来ます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型サービスに移行したのを契機として、地域の中でその人らしく暮らし続けることをより鮮明に打ち出した理念に作り変えている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、研修会等で確認し、運営者、管理者、職員共に共有して、実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の盆踊り大会や敬老会への参加、散歩の折の地域住民との立ち話、習字やお花、その他ボランティアとの交流、地域向け情報誌の発行と回覧、地域清掃への職員の参加など、地元の人々との交流に努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、職員は共に自己評価及び外部評価を正しく理解し、評価を参考にして取り組んでいる。前回の指摘事項の一つである苦情処理について改善されている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>地域自治会長と地区自治会長、民生委員、第三者委員、地域包括支援センター、利用者、家族などのメンバーで2ヶ月に1回開催しているが、お願いと実績報告が中心となり、提言や意見交換が少ない。</p>	<p>・自己評価、外部評価結果の活用 ・意見交換できる雰囲気づくり</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>関係部署にその都度問い合わせで指示、助言を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回ホームだよりを郵送し、来館時や電話などで一人ひとりに合わせた報告をしており、預かり金などの金銭管理状況は来訪時に確認してもらっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族が自由に意見が出せる機会として毎年1回”家族の集い”を設けている。相談、苦情受付窓口、第三者委員を明示し、苦情処理手続きも明確にしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	2ユニットで常勤8名、非常勤12名を確保し管理者はフリーな勤務体系にあり、状況の変化に柔軟に対応できる体制である。非常勤を含め職員が確保しているため、緊急時にも対応できる。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は必要最小限であり、並列するユニットであり、馴染みの人間関係を保たれている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の機会を提供し、法人内でも計画的に研修を行っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内の地域密着型サービス事業連絡協議会に参加し、協議会の開催、職員の研修会を各施設持ち回りで実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前に家庭訪問や面接を行い、本人や家族と話し合い、希望者には事前の施設見学も対応している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>料理や髪の手入れなど得意とする事を職員は教えてもらったり、共に支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>アセスメントや日常の会話や観察の中で、利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、希望に添った支援に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の希望を聞き、課題とケアのあり方について職員全体で話し合い、介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>状況に変化が生じた場合は、家族と共に話し合い介護計画を見直し、現状に即した計画を作成している。定期的な見直しもしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院受診援助、外出支援(敬老会参加同行)、行政機関への諸手続きの代行、サービス提供の記録などの複写など希望により柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の往診やかかりつけ医の受診など個々の希望にあわせ、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人や家族の希望があれば、主治医とも早い時期に話し合い取り組む意向がある。	・重度化や終末期に向けた指針の検討
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の前で職員同士が他の利用者のことを言わないようにお互いに注意している。ユニット会議で言葉使いや接遇について研修している。個人記録はロッカーに保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースを大切にし、自由に過ごしている様子が伺えた。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、利用者の健康状態に配慮した調理に工夫をしている。当日は五目中華麺であり、利用者と職員と一緒に盛り付けをし食事を楽しんでいった。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回、14時～17時まで可能であり、希望すれば毎日入浴できる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	TVの視聴、移動車のパン購入、レクリエーションなどの楽しみごとや、食事の支度、後片付け、洗濯、掃除など一人ひとりの個性を活かせる場面づくりの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブなど戸外に出かける支援を行っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	研修会で抑制や拘束について学び、正しく理解しており、抑制や拘束のないケアをしている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は門、玄関、居室など鍵はかけないケアに取り組んでいる。外出をセンサーで察知し職員が同行している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、転倒、窒息、誤薬などについてミーティング、ユニット会議で定期的に確認し、事故防止に取り組んでいる。事故、ヒヤリはっと報告書に記録し、発生予防に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や事故発生時に備えた研修は行なったが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は行っていない。「AED」の講習会では地域の参加もあり、必要が生じた時は貸し出しもしている。	・定期的な訓練
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議や地域への回覧などにより、日常より地域の人々の協力が得られる体制を構築している。火災時、地震時、災害時などの避難訓練を実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書を個別にファイルし、服薬している薬について職員が共通理解しており、薬はその都度手渡しし、服薬を確認している。症状の変化に応じて、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後個別に洗面所まで誘導し口腔内の清潔保持の支援を行っている。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管について支援している。2ヶ月に1回、定期的に歯科の往診もあり、噛み合わせやブラッシング指導を受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	併設施設の栄養士が献立を作成しており、栄養バランスに配慮されている。一人ひとりの食事量、水分量を記録し、把握している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、掃除方法、手洗い、うがいなどマニュアルに従って実行している。インフルエンザの予防接種は利用者、職員全員が接種し予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	木造平屋建ての現代日本建築による高い天井からの採光が十分で、自然の風を取り込んだりして開放感にあふれ、居心地よく過ごしている。リビングからキッチンの様子が伺え、野菜を刻む音、ご飯の炊ける匂い、窓ガラス越しには季節の花が見え、五感に働きかける刺激がある。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、タンス、机など所持品は使い慣れたものを持ち込み、居心地よく過ごせる。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム秀東館 虹
所在地	岩国市周東町下久原1733番地
電話番号	(0827)83-0036
開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日

【実施ユニットの概要】 (11月19日現在)

ユニットの名称	ユニット 1			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	4	要介護 4	2
	要介護 2	1	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 87.6 歳	最低 78 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を申し送りノート内ファイルにて、職員全員に確認してもらい記入事項があれば記入するようにした。(ただし その期間が短かった)自己評価 項目1～97は、殆ど管理者が記入。運営者にしか記入できない事項については、運営者が記入。項目98～110は ミーティングにおいて職員に聞いて記入。
評価確定日	平成 19 年 11 月 19 日

【サービスの特徴】

施設の建物は、現代日本建築による 高い天井・天窓からの自然の光、風を取り込む事ができる、開放感あふれ明るく、心が和む造りとなっています。開設から1年8ヶ月を迎え行事や施設運営もどのようにしたらよいか、すべきか少しづつ分かりかけたところです。入居者の方一人ひとりの性格や要望 悩み事についても段々分かってきたところです。お皿を洗ったり、野菜の皮を剥いて食事の下ごしらえされるとき生き生きとした笑顔から一辺「もう帰ります」と車椅子から繰り返し立ち上がられるなど、一喜一憂される入居者の方に、できるだけ寄り添えるように 又 どれだけ寄り添えるかスタッフ同士協力しながら、努力しているところです。入居者の方が、我が家として暮らしていただく為に日中は玄関 門に一切鍵をかけていません。施設の周囲にセンサーを設置、もしもの時の入居者の方の安伝を守っています。家族の方や地域の方も自由に出入りができ閉鎖感のない、開放された体制をとっています。又、親睦を図る為に家族の方を招いての花火鑑賞会・運動会の開催をしています。【大家族主義】の理念のもと、入居者の方、その家族と職員が真の家族になれるよう関係を深めていきたいと思っています。地域との交流においては、施設での事を知って頂くために毎月(情報発信)を回覧版と一緒に廻してもらっています。又、地域の盆踊り大会への参加、敬老会への参加、地域ボランティアの方の慰問や運動会等を通し交流を深めていきたいと思っています。地域に密着した、開かれた施設として地域の皆様が気軽に立ち寄って頂けるよう 一層の努力をしていこうと思っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>グループホーム秀東館虹では入居者の方が地域の中でその人らしく毎日穏やかな生活が過ごせるよう家庭の温かさを大切にし家族として寄り添います に変更</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>日々のミーティング等でも理念に直結した支援ができる様、検討事項としてとりあげていきたい。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>理念を具体的な支援と結び付けて、全職員に認識してもらえよう努めたい。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>理念の具体的な内容を 虹便りや情報発信に取り込むようにする。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回 指摘、アドバイスを受けた内容については改善に取り組んだ。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	サービスの実際や外部評価の内容について運営推進会議で報告した。そこでの意見は出なかった。	報告についての意見をいただけるよう努め、サービスに活かしたい。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	気になる事や分からない事があれば、その都度市の介護保険課に電話で問い合わせ指示、助言を仰ぐようにしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者や一部の職員については、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、職員全員には至っていない。一人活用されているが、現在のところ他に必要な方はおられない。	職員の研修会をする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について、本年度施設内研修を実施した。学んだことを基に防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、理解・納得していただけるよう説明をしている。又いつでも聞いていただけるようお話している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を施設内に設置、第三者委員を設けている。意見不満があった場合には、ミーティングやユニット会議で検討打開策を検討している。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来館時や電話、毎月一回虹便りを個々にあわせて発送している。預り金 金銭管理についても出納簿を来館時に確認していただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	今 現在要求はない。		情報開示の要求があれば対応できる。
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の集いにおいて 運営に関して意見が表せる機会を設けている。施設内に苦情相談窓口、他に包括支援センター、国保連合会、第三者委員等の外部機関についても重要事項説明書に明記 説明している。苦情処理するために講ずる概要を示している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議やミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。この場に限らず いつでも聞けるように心がけて 反映できる内容については反映している。		
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に基準以上の人員配置となっている。		
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動 離職を必要最小限に抑える努力をしている。		異動や離職の場合ダメージがないよう配慮したい。
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人以外の研修会に参加の機会を設けている。		秀東館グループ全体の研修会の開催。 施設視察研修会の実施
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代～60代 経験多様な職員を配置 その資質を生かし、大家族として利用者の方の暮らしに対応している。		
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を設立し、協議会の開催 職員の研修会を各施設持ち回りで実施している。		協議会に行政からの参加を頂き 意見交換を実施した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		忘年会 施設対抗ボーリング大会
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		功労者の表彰
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		現状のままでよい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		認知症のご本人からは、不安、困っていること等聴き出せることは困難な場合があるが努力はしていきたいと思う。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		今後も事前訪問をし 家族の思いを傾聴するように努めたい。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		ご本人 家族においてどの生活環境が一番適しているかを入居前に他のサービス利用も含めて対応するよう努めていきたい。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		まず ご本人の話を傾聴 それから一緒にやってみる、同じ立場に立ってみる、ように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の虹便りにご本人の様子やその時々表情をお知らせしている。行事に参加して頂いたり来館時一緒にお茶や食事をして頂いて思いを同じにして頂けるように努めている。家族の思いや相談があれば、時間を取って傾聴するように心がけている。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人との会話の中から、気持ちを家族に伝えたり、現状の様子を伝える努力はしているが それまでのご本人と家族の関わりがあるため困難な場合もある。		できるだけ双方の話や思いを傾聴し、良い関係が築けるように支援していきたい。
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅へお連れしたり、地元のなじみの場所への希望があればお連れするようにしている。		地元の選挙会場、ご自宅、親戚の家にお連れした。
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ミーティング等で繰り返し 利用者同士が関わり合い 支えあえるように トラブルが起こらないように 起こったときにどのように対応すればよいか話合っている。		双方の話をそれぞれ聞いて良い方法が見出せるように努力はしているがトラブルはおこるので職員同士情報を共有し一人ひとりが孤立されないよう一層努力していきたい。
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了した家族の方から相談があったが、できる範囲で相談にのっている。契約が終了退居された方のご家族へ電話でその後の様子をお聞きした。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1.一人ひとりの把握			
38 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事が皆さんと一緒に食べられない日には場所や時間を変えて召し上がっていただく等 その方の思い暮らし方の希望を大切にするように努めている。		
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の訪問時に得た生活歴 馴染みの暮らし方など職員に提供している。		入居後分かったことについてはミーティングの場などにおいて情報の共有をしているが、記録記述の様式がないので作成し記録するようにしたい。
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録・介護記録・各チェック表により把握できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の方に施設やケアに対する要望については聞いていますが直接的に介護計画に反映できるに至っていない。	介護計画に取り入れられるよう 家族の方と具体的なケアについて話すよう取り組んでいきたい。
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しは行っている。変化が生じた場合は、本人、家族、関係者等の話し合いによってサービスの変更は行っているが、計画作成が後になっている事がある。	変化が生じた場合の計画変更をすばやく行うよう努めたい。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月別の介護記録と個別のケース記録を設け、実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録の記述について 勉強中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	昼食等一緒に食べたいと希望があれば準備一緒に召し上がっていただく等 柔軟な支援に努めている。	要望があれば他にも その時々々に応じて対応していきたいと思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティア(童謡クラブ・フォークダンス・舞踊・書道)小学生との交流を持っている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	他の施設の運営者の研修会の場として提供する予定。見学についてはいつでも受け入れている。外部から来られて入居者の方の落ち着きがなくなることもない。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居者状況や施設の概要についての問い合わせの対応は、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者の方と話あっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		施設運営やケアマネジメント等で困ったり分からなかったりした場合指導を仰ぎたいと思う。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		往診やスタッフが受診へお連れする等、個々の希望にあわせて医療が受けられるようにしている。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		これから、認知症専門医との関わり合いが重要になってくると予想されるので、医師との良い関係作りに取り組んでいきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		こうした場合に備えて、通常より連携をとるよう取り組んでいきたい。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		該当者が出た場合 早い段階から取り組んでいきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		該当者が出た場合 チームとして支援に取り組んでいきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		家族の方やご本人が新施設の職員とよい関係ができる様間に入り取り組んでいこうと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いについてはユニット会議等において職員同士気を付けるよう申し合わせている。入居者の前で職員同士が他の方の事について言わないように気をつけている。</p>	<p>気になる対応があれば、職員同士その場で気をつけ合うように取り組んでいく。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>夏の暑い日「外に出たい」という希望に対して実際に暑さを感じていただき「涼しくなってから又出ましょう」と説明し納得していただくなど暮らしの中でできるだけ希望が表せ又納得して頂けるように支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>個々にあわせて 洗濯たたみ・干し 掃除 食事の下ごしらえ・味見 食器洗いなど 家事を手伝っていただいている。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人が今、何がしたいのかを理解し日々その人らしい暮らしができるよう支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみについては支援しているが 理容・美容は 施設に来館してくれる美容師を利用している。</p>	<p>本人希望の所があれば、お連れするように努めていきたい。</p>
61	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好物のものを聞きながら、誕生会の献立など考えている。下ごしらえや配膳もして頂いている。昼食は職員も同じテーブルで同じ物を食べている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲み物やおやつは日常的に お酒は行事等で楽しんでいただくよう支援している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの力や排尿パターンを活かしていくよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		同系列の施設のゲストルームを利用されたことはある。希望があれば 居室での宿泊も可能

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中 門 玄関 居室等 施錠はしていない。	玄関と施設周辺のセンサーで安全が確保できるよう支援している。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は殆どフロアーで過ごされる方が多く 目配り 気配りに努めている。夜間は 2時間おきの巡視をしている。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみを居室に置いて大丈夫な方、困難な方など一人ひとりの状態に合わせた取り組みをしている。	
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとり それぞれ危険性が異なることを把握し、飲み込みの悪い方には十分な見守り、服薬介助時には 日付け 氏名を確認するようミーティング ユニット会議で申しあわしている。	毎日の業務で緊張感がなくならないように定期的に確認する場を設け、事故予防に努めていきたい。
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応について看護師を講師に勉強会はしたが実際の訓練を定期的には行っていない。	初めて、急変時に遭遇した職員はその対応ができなかったのが実状。定期的な訓練を実施し、緊急時に対応できるよう取り組んでいきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリハット報告書に記入するとともに、全員が周知 発生予防の為に取り組んでいる。	命にかかわる事態に対しては、すぐに全体ミーティングを開催している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災 地震 災害等の実施訓練を施行。		運営推進会議の時や地域への回覧によって協力が得られるようお願いしている。
82 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	車イスから立ち上がられる方など、できるだけ職員が見守るようにする事を話している。		今後 必要に応じて対応策を家族の方と話しあっていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化 異変に気付いた際には速やかに主治医に報告指示を仰ぐようにしている。		
84 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員がすぐに確認できるよう 薬の説明書を個別にファイルしている。薬に変更があった場合には特に注意し、状態に変化があった場合には医師にフィードバックしている。		薬剤師を講師に招き 薬の効用、副作用、服薬介助の方法等を研修した。
85 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘については、起きがけの飲水や運動 食事に配慮している。下剤の服用も兼ねている。		排便の習慣がつくよう 同じ時間にトイレへお連れする事を継続する事によって習慣化された方もおられる。
86 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後 個別に口腔内の清潔保持の支援を行っている。		定期的(1/2ヶ月)に歯科往診。噛み合せやブラッシングの指導を受けている。
87 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせた食事量とし、その量や水分量が確保できるように記録し支援している。特に水分量には気をつけている。		栄養士による献立に従って食事をつくっている。
88 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、掃除方法などマニュアルに従って実行している。手洗い うがいの実行。		インフルエンザの予防接種は入居者 職員全員が接種するようにしている。
89 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルを作成し その管理に努めている。		冷蔵庫内の衛生 食材の確認等毎週日曜日に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに 季節の物をディスプレイしたり花を生けたり工夫をしている。	施錠は一切していない。
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	入居者の方が居心地よく過ごせるよう清潔や整理・整頓に心掛けている。	自然の光や風が取り込める建物となっている。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに食卓、ソファー、畳を配置し思い思い過ごせる居場所を提供している。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際 ベット タンス 机 他の所持品等使い慣れた物や好みのものを持ってきてもらっている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天窓の開閉、各居室のエアコン等により温度管理 換気に努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	共用の空間の手すりを持つての歩行、トイレの手すりを持つての立ち上がりなど 安全かつ身体機能が活かせるよう工夫されている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個人を大切にし その方にあった言葉掛けにより混乱や失敗が防げるよう支援している。	一人ひとりのわかる力 が少しずつ低下しているのも現実であり、その時々にあった対応をより深めていきたい。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関の外の屋根付きの部分で、おやつ時間過ぎたり レクをしたり、建物東側の芝生の上で夏家族の方を招いて食事をしたり、敷地内で散歩したり活用している。	土の部分があれば 菜園や花壇として活用できると思う。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム秀東館 虹
所在地	岩国市周東町下久原1733番地
電話番号	(0827)83-0036
開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日

【実施ユニットの概要】 (11月19日現在)

ユニットの名称	ユニット 2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	3	要介護 4	
	要介護 2	3	要介護 5	
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢構成	平均 87.7 歳	最低 76 歳	最高 99 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を申し送りノート内ファイルにて、職員全員に確認してもらい記入事項があれば記入するようにした。(ただし その期間が短かった)自己評価 項目1～97は、殆ど管理者が記入。運営者にしか記入できない事項については、運営者が記入。項目98～110は ミーティングにおいて職員に聞いて記入。
評価確定日	平成 19 年 11 月 19 日

【サービスの特徴】

施設の建物は、現代日本建築による 高い天井・天窓からの自然の光、風を取り込む事ができる、開放感あふれ明るく、心が和む造りとなっています。開設から1年8ヶ月を迎え行事や施設運営もどのようにしたらよいか、すべきか少しづつ分かりかけたところです。入居者の方一人ひとりの性格や要望、悩み事についても段々分かってきたところです。お皿を洗ったり、野菜の皮を剥いて食事の下ごしらえされるとき生き生きとした笑顔から一辺「もう帰ります」と車椅子から繰り返し立ち上がられるなど、一喜一憂される入居者の方に、できるだけ寄り添えるように 又、どれだけ寄り添えるかスタッフ同士協力しながら、努力しているところです。入居者の方が、我が家として暮らしていただく為に日中は玄関 門に一切鍵をかけていません。施設の周囲にセンサーを設置、もしもの時の入居者の方の安伝を守っています。家族の方や地域の方も自由に出入りができ閉鎖感のない、開放された体制をとっています。又、親睦を図る為に家族の方を招いての花火鑑賞会・運動会の開催をしています。【大家族主義】の理念のもと、入居者の方、その家族と職員が真の家族になれるよう関係を深めていきたいと思っています。地域との交流においては、施設での事を知って頂くために毎月(情報発信)を回覧版と一緒に廻してもらっています。又、地域の盆踊り大会への参加、敬老会への参加、地域ボランティアの方の慰問や運動会等を通し交流を深めていきたいと思っています。地域に密着した、開かれた施設として地域の皆様が気軽に立ち寄って頂けるよう 一層の努力をしていこうと思っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>秀東館グループの【大家族主義】の理念を基本に、認知症の方が穏やかに生活ができる様に 寄り添い を掲げている。地域の中で ということは盛り込んでいない。</p>	<p>グループホーム秀東館虹では入居者の方が地域の中でその人らしく毎日穏やかな生活が過ごせるよう家庭の温かさを大切に家族として寄り添います に変更</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>施設の出入り口に理念を掲示しており、研修会等で理念の確認をしている。寄り添いの気持ちをもって取り組んでいる。</p>	<p>日々のミーティング等でも理念に直結した支援ができる様、検討事項としてとりあげていきたい。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	<p>研修会やミーティングにおいて理念を明確にしている。</p>	<p>理念を具体的な支援と結び付けて、全職員に認識してもらえよう努めたい。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	<p>日々のミーティング、施設内研修等においてサービスの質の向上に向け支援の方法等の学習・検討・改善を行っている。</p>	
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族の方へは 虹だより 地域の方には 情報発信 を月1回送付・回覧している。その中に【大家族主義】を明記している。</p>	<p>理念の具体的な内容を 虹便りや情報発信に取り込むようにする。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>消防訓練、運動会等のお知らせは 近隣の方には直接配布。できるだけ手渡しをするようにしている。</p>	
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>入居者の方は 敬老会に参加、職員は地域の清掃活動に参加している。</p>	
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>AED(自動体外式除細動器)の活用を地域の方にも知っていただけたらよい、まず、運営推進会議において講習会を実施する。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回 指摘、アドバイスを受けた内容については改善に取り組んだ。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	サービスの実際や外部評価の内容について運営推進会議で報告した。そこでの意見は出なかった。	報告についての意見をいただけるよう努め、サービスに活かしたい。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	気になる事や分からない事があれば、その都度市の介護保険課に電話で問い合わせ指示、助言を仰ぐようにしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者や一部の職員については、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、職員全員には至っていない。一人活用されているが、現在のところ他に必要な方はおられない。	職員の研修会をする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について、本年度施設内研修を実施した。学んだことを基に防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、理解・納得していただけるよう説明をしている。又いつでも聞いていただけるようお話している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を施設内に設置、第三者委員を設けている。意見不満があった場合には、ミーティングやユニット会議で検討打開策を検討している。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来館時や電話、毎月一回虹便りを個々にあわせて発送している。預り金 金銭管理についても出納簿を来館時に確認していただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	今 現在要求はない。		情報開示の要求があれば対応できる。
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の集いにおいて 運営に関して意見が表せる機会を設けている。施設内に苦情相談窓口、他に包括支援センター、国保連合会、第三者委員等の外部機関についても重要事項説明書に明記 説明している。苦情処理するために講ずる概要を示している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議やミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。この場に限らず いつでも聞けるように心がけて 反映できる内容については反映している。		
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に基準以上の人員配置となっている。		
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動 離職を必要最小限に抑える努力をしている。		異動や離職の場合ダメージがないよう配慮したい。
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人以外の研修会に参加の機会を設けている。		秀東館グループ全体の研修会の開催。 施設視察研修会の実施
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代～60代 経験多様な職員を配置 その資質を生かし、大家族として利用者の方の暮らしに対応している。		
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を設立し、協議会の開催 職員の研修会を各施設持ち回りで実施している。		協議会に行政からの参加を頂き 意見交換を実施した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		忘年会 施設対抗ボーリング大会
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		功労者の表彰
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		現状のままでよい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		認知症のご本人からは、不安、困っていること等聴き出せることは困難な場合があるが努力はしていきたいと思う。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		今後も事前訪問をし 家族の思いを傾聴するように努めたい。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		ご本人 家族においてどの生活環境が一番適しているかを入居前に他のサービス利用も含めて対応するよう努めていきたい。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		まず ご本人の話を傾聴 それから一緒にやってみる、同じ立場に立ってみる、ように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の虹便りにご本人の様子やその時々表情をお知らせしている。行事に参加して頂いたり来館時一緒にお茶や食事をして頂いて思いを同じにして頂けるように努めている。家族の思いや相談があれば、時間を取って傾聴するように心がけている。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人との会話の中から、気持ちを家族に伝えたり、現状の様子を伝える努力はしているが それまでのご本人と家族の関わりがあるため困難な場合もある。		できるだけ双方の話や思いを傾聴し、良い関係が築けるように支援していきたい。
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅へお連れしたり、地元のなじみの場所への希望があればお連れするようにしている。		地元の選挙会場、ご自宅、親戚の家にお連れした。
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	実際に利用者同士のトラブルが頻繁にあり、ミーティング等で繰り返し 利用者同士が関わり合い 支えあえるように トラブルが起こらないように 起こったときにどのように対応すればよいか話合っている。		双方の話をそれぞれ聞いて良い方法が見出せるように努力はしているがトラブルはおこるので職員同士情報を共有し一人ひとりが孤立されないよう一層努力していきたい。
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了した家族の方から相談があったが、できる範囲で相談にのっている。契約が終了退居された方のご家族へ電話でその後の様子をお聞きした。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事が皆さんと一緒に食べられない日には場所や時間を変えて召し上がっていただく等 その方の思い暮らし方の希望を大切にするように努めている。		
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の訪問時に得た生活歴 馴染みの暮らし方など職員に提供している。		入居後分かったことについてはミーティングの場などにおいて情報の共有をしているが、記録記述の様式がないので作成し記録するようにしたい。
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録・介護記録・各チェック表により把握できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の方に施設やケアに対する要望については聞いていますが直接的に介護計画に反映できるに至っていない。	介護計画に取り入れられるよう 家族の方と具体的なケアについて話すよう取り組んでいきたい。
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しは行っている。変化が生じた場合は、本人、家族、関係者等の話し合いによってサービスの変更は行っているが、計画作成が後になっている事がある。	変化が生じた場合の計画変更をすばやく行うよう努めたい。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月別の介護記録と個別のケース記録を設け、実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録の記述について 勉強中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	レクリエーション参加の希望があったので家族の方にも参加していただく等 柔軟な支援に努めている。	要望があれば他にも その時々々に応じて対応していきたいと思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティア(童謡クラブ・フォークダンス・舞踊・書道)小学生との交流を持っている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	他の施設の運営者の研修会の場として提供する予定。見学についてはいつでも受け入れている。外部から来られて入居者の方の落ち着きがなくなることもない。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居者状況や施設の概要についての問い合わせの対応は、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者の方と話あっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		施設運営やケアマネジメント等で困ったり分からなかったりした場合指導を仰ぎたいと思う。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		往診やスタッフが受診へお連れする等、個々の希望にあわせて医療が受けられるようにしている。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		これから、認知症専門医との関わり合いが重要になってくると予想されるので、医師との良い関係作りに取り組んでいきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		こうした場合に備えて、通常より連携をとるよう取り組んでいきたい。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		該当者が出た場合 早い段階から取り組んでいきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		該当者が出た場合 チームとして支援に取り組んでいきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		家族の方やご本人が新施設の職員とよい関係ができる様間に入り取り組んでいこうと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いについてはユニット会議等において職員同士気を付けるよう申し合わせている。入居者の前で職員同士が 他の方の事について言わないように気を付けている。</p>	<p>気になる対応があれば、職員同士その場で気をつけ合うように取り組んでいく。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>夏の暑い日「外に出たい」という希望に対して実際に暑さを感じていただき「涼しくなってから又出ましょう」と説明し納得していただくなど暮らしの中でできるだけ希望が表せ又納得して頂けるように支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>個々にあわせて 洗濯たたみ・干し 掃除 食事の下ごしらえ・味見 食器洗いなど 家事を手伝っていただいている。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人が今、何がしたいのかを理解し日々その人らしい暮らしができるよう支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみについては支援しているが 理容・美容は 施設に来館してくれる美容師を利用している。</p>	<p>本人希望の所があれば、お連れするように努めていきたい。</p>
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好物のものを聞きながら、誕生会の献立など考えている。下ごしらえや配膳もして頂いている。昼食は職員も同じテーブルで同じ物を食べている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲み物やおやつは日常的に お酒は行事等で楽しんでいただくよう支援している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの力や排尿パターンを活かしていくよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		同系列の施設のゲストルームを利用されたことはある。希望があれば 居室での宿泊も可能

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中 門 玄関 居室等 施錠はしていない。	玄関と施設周辺のセンサーで安全が確保できるよう支援している。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は殆どフロアーで過ごされる方が多く 目配り 気配りに努めている。夜間は 2時間おきの巡視をしている。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみを居室に置いて大丈夫な方、困難な方など一人ひとりの状態に合わせた取り組みをしている。	
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとり それぞれ危険性が異なることを把握し、飲み込みの悪い方には十分な見守り、服薬介助時には 日付け 氏名を確認するようミーティング ユニット会議で申しあわしている。	毎日の業務で緊張感がなくならないように定期的に確認する場を設け、事故予防に努めていきたい。
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応について看護師を講師に勉強会はしたが実際の訓練を定期的には行っていない。	初めて、急変時に遭遇した職員はその対応ができなかったのが実状。定期的な訓練を実施し、緊急時に対応できるよう取り組んでいきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリハット報告書に記入するとともに、全員が周知 発生予防の為に取り組んでいる。	命にかかわる事態に対しては、すぐに全体ミーティングを開催している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災 地震 災害等の実施訓練を施行。		運営推進会議の時や地域への回覧によって協力が得られるようお願いしている。
82 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	車イスから立ち上がられる方など、できるだけ職員が見守るようにする事を話している。		今後 必要に応じて対応策を家族の方と話しあっていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化 異変に気付いた際には速やかに主治医に報告指示を仰ぐようにしている。		
84 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員がすぐに確認できるよう 薬の説明書を個別にファイルしている。薬に変更があった場合には特に注意し、状態に変化があった場合には医師にフィードバックしている。		薬剤師を講師に招き 薬の効用、副作用、服薬介助の方法等を研修した。
85 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘については、起きがけの飲水や運動 食事に配慮している。下剤の服用も兼ねている。		排便の習慣がつくよう 同じ時間にトイレへお連れする事を継続する事によって習慣化された方もおられる。
86 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後 個別に口腔内の清潔保持の支援を行っている。		定期的(1/2ヶ月)に歯科往診。噛み合せやブラッシングの指導を受けている。
87 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせた食事量とし、その量や水分量が確保できるように記録し支援している。特に水分量には気をつけている。		栄養士による献立に従って食事をつくっている。
88 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、掃除方法などマニュアルに従って実行している。手洗い うがいの実行。		インフルエンザの予防接種は入居者 職員全員が接種するようにしている。
89 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルを作成し その管理に努めている。		冷蔵庫内の衛生 食材の確認等毎週日曜日に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに 季節の物をディスプレイしたり花を生けたり工夫をしている。	施錠は一切していない。
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	入居者の方が居心地よく過ごせるよう清潔や整理・整頓に心掛けている。	自然の光や風が取り込める建物となっている。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに食卓、ソファ、畳を配置し思い思い過ごせる居場所を提供している。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際 ベット タンス 机 他の所持品等使い慣れた物や好みのものを持ってきてもらっている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天窓の開閉、各居室のエアコン等により温度管理 換気に努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	共用の空間の手すりを持つての歩行、トイレの手すりを持つての立ち上がりなど 安全かつ身体機能が活かせるよう工夫されている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個人を大切にし その方にあった言葉掛けにより混乱や失敗が防げるよう支援している。	一人ひとりのわかる力 が少しずつ低下しているのも現実であり、その時々にあった対応をより深めていきたい。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関の外の屋根付きの部分で、おやつ時間過ぎたり レクをしたり、建物東側の芝生の上で夏家族の方を招いて食事をしたり、敷地内で散歩したり活用している。	土の部分があれば 菜園や花壇として活用できると思う。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどできていない